

大会規定

- 1 チームの登録選手 11 名以上とし上限は設けない。登録された選手はベンチ入りを可とする。但し、試合出場はメンバー表に書かれた20名とするが、試合ごとの変更を可とする。
- 2 出場選手は、令和6年8月9日現在、連盟に登録及び傷害保険加入者に限る。
- 3 審査証は選手・指導者とも2024年度発行のものに限る。
- 4 ベンチ入りは代表(チーム責任者)・監督・コーチ・マネージャーのみとする。
また、監督・コーチは登録証を携帯すること。(チーム責任者が不在の場合は試合を行わない。)
また、監督、コーチが、登録証を携帯していない場合、選手が審査証を携帯していない場合は、いかなる理由があろうともベンチに入ることにはできないが、監督・コーチは試合開始までに間に合った場合は、審査のうえ、ベンチ入りすることができる。(マネージャーの登録証携帯の有無は問わない)また、選手は試合終了までに間に合った場合は、その時点でベンチ入りを認める。
- 5 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用すること。マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること。
- 6 組み合わせの若い番号が1塁側のベンチ、後の番号が3塁側のベンチに入ること。
- 7 試合開始時間の1時間前に試合会場に到着し、到着と同時に審査を受け審査後速やかにスターティングメンバー表を5部本部に提出すること。
- 8 メンバー表交換後に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンによって決める。
- 9 試合開始時間までにチームが到着していない時、主審は没収試合を宣言することができる。
- 10 中学生の部は7回戦とし、2時間を超えて新しいイニングに入らない。(延長戦は行わない) なお、同点の場合は2回までのタイブレーク方式にて決める。タイブレークでも勝敗が決しない場合は、最終回のメンバー9名全員の抽選で決める。
中学生ジュニアの部は7回戦とし、2時間を超えて新しいイニングに入らない。(延長戦は行わない) なお、同点の場合は、2回までのタイブレーク方式にて決める。タイブレークでも勝敗が決しない場合は、最終回のメンバー9名全員の抽選で決める。
- 11 4回終了時10点差、5回終了時7点差の場合はコールドゲームとする。
- 12 降雨、日没、その他の理由により試合続行不能となった場合は、4回以降であればコールドゲームが成立。
- 13 試合前のシートノックは行わない。
- 14 投手の投球数等については、統一ガイドラインを適用する。
- 15 攻守で監督及びコーチの指示・伝令は1試合で各2回の計4回を限度とする。延長に入った場合は、1回の指示・伝達を認める。(選手の怪我や選手交代は回数にカウントしない)
守備側の投手に対する指示・伝達が3回となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
内野手(捕手を含む)が2人以上投手の所に行った時も1回に数える。また、指示・伝達は主審がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 16 監督またはコーチが選手にアドバイスをする時は、マウンドのところで行うこと。(ベンチから駆け足で)
- 17 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの実用についての確認は認める。
- 18 2塁走者および次打者ならびにベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 19 ボール回しをする時は一回限りとし、最終野手はその位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 20 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用の牽制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 21 ヘルメットは1チーム同色7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、ストローガード、ファウルカップ)は2組備えること。
- 22 バット、グローブ、スパイク等は連盟指定のものに限る。
- 23 捕手は必ずユニフォームの下に規程の防具を試合及び練習を問わずに着用すること。
- 24 グラウンドの都合で大会のトーナメント規定が別に制定された場合、それに従うこと。
- 25 大会中の負傷については応急処置は行うが、それ以外の責任は持たない。
- 26 本大会は、2024年度野球規則及び(公財)日本少年野球連盟規則ならびにローカルルールを適用する。
- 27 本規定に定めのない事項が発生した場合は、関係者協議のうえ、大会主催者が下した裁定を最終決定とする。
- 28 試合終了後、両チームはグラウンド整備に協力すること。